宮崎 昌宗 議員

ふれあいの家を県から譲渡か

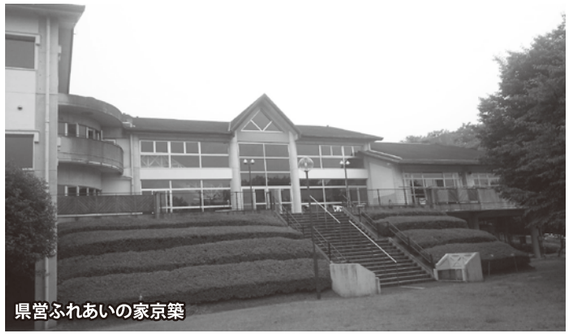
永野開発交流推進課長 協議中だが時間がかかる

問 県営ふれあいの家京築を、県から譲渡を受けるといった話があったが進捗は。

永野開発交流推進課長 県の意向として、①建物を町へ譲渡、②土地が町有地なので建物を取り壊し更地にして返還、といった2案の方針で協議を行っている。

問 町の方針は。

永野課長 仮に施設の譲渡を受ける場合は、活用方法の十分な検討が必要。また建設から23年経ち、老朽化もしているので今後の維持管理を考え、ボイラーや空調施設の修理を含め取り換えを県に求める必要があると考えている。


県営ふれあいの家京築

問 利用も多く景色も良い。更地にするのはもったいないのでは。活用を前向きに検討しては。

永野課長 できれば有効活用を図っていきたいが、県との考えが合わなければ更地という結果もありうる。

大池公園の開発計画は

問 大池公園西側エリアの施設で、具体的に何を運営するのか。

永野課長 広域交流拠点事業エリアとし、町外からの来場客のおもてなしを行う交流物販複合ゾーンと位置づけ、イベント利用も可能なゲストハウスと眺望テラス、高速道路からの連結による駐車場施設を計画している。情報案内所、カフェなどの飲食施設、ギャラリー、セレクト品直売所などを現段階では想定している。

問 管理運営方法の計画は。

永野課長 指定管理などの民間活力による管理運営を検討している。

問 昨年の9月議会で、PFI(※)などの民間資金を活用した施設整備を提案したが、検討は。

永野課長 民間活力の必要性は十分に認識している。本年度、地方創生事業の中で、民間企業の整備運営に関する意向調査を行う。また県などが実施する研修会などに参加し、PFI制度導入に向けた情報収集に努めている。

※PFI
プライベート・ファイナンス・イニシアティブの略称。「民間資金などを活用した社会資本整備」のことで、民間企業が主導し、その資金調達、経営管理などのノウハウを活用する新たな社会資本整備手法である。

問 ETCを活用したスマートパーキング方式の導入も提案したが経過は。

永野課長 すぐにNEXCOと協議を行ったが、大池公園のみを特化して実施するのは難しく、仮に実施できても町に利用料の経費負担が生じる。他で行われている社会実験の動向を注視しているところである。

問 大池公園を景観だけでなく、農業用ため池の歴史や意義などを伝える農業文化施設として整備してはどうか。世界農業遺産ぐらいの価値があるのでは。

永野課長 検討、調査をさせていただきたい。

問 旧ビール館の活用は。

福田企画情報課長 本年5月に譲渡契約を締結し、正式に町の所有となった。施設の活用方法について庁内で検討し、今後協議する予定である。大池公園の開発とも連携し、有効な活用を考えたい。

道の駅は改革できたのか

問 道の駅改革プロジェクト(637万円)の内容と成果は。

福田課長 経営診断をはじめ、店内全体のレイアウトの見直し、商品陳列用什器の入れ替え、パッケージデザインの見直し、ポスターやポップなどの作成や、ビジュアル・マーチャンダイジング(※)を行った。成果として、商品の種類や数量を整理することで、商品が探しやすくなった。また店の雰囲気が明るくなり、利便性が高まったと思う。現在も日々改善を行っている。

※ビジュアル・マーチャンダイジング
消費者の視覚に訴える商品政策。店舗デザイン、商品の企画・仕入・陳列、宣伝、販売に独自のストーリー性をもたせ、その総合的演出効果を狙う。消費者ニーズの個性化・多様化にともない、今後さらに重要となる商品政策である。

問 コンテナハウス事業(ピザ屋)が、開業まで1年以上かかり、計画や仕様、事業費も多々変更した。計画立案や事業の進め方に反省点はないのか。

川口副町長 結果論からすれば、『よし』と考えている。ただ、期間などで皆さんに迷惑をかけたことは反省すべき点だと思っている。

田中 唯登志 議員

人口ビジョン施策の動向は

坪根町長 雇用なくして定住なし

問「安定した雇用を創出する」今の現状は。

福田企画情報課長 町の施策として実施している主な事業は、観光資源の創出、整備として、大池公園開発事業・上毛PA・SIC周辺の開発・道の駅に10月にオープンするピッツァ専門店など新商品の開発、トレイルマラソン事業などのイベントの開催。地域産業の活性化としては、農産物のブランド化の推進及び販路拡大、6次産業化の推進や担い手対策、鳥獣害対策支援などを行っている。

修験道トレイルマラソンのフェイスブックページ

問 現段階で特に力を入れている新規事業は。

福田課長 観光資源の創出の整備として大池公園開発事業がある。新規事業では、町の修験文化と里山資源を生かした情報発信と交流人口の増加を目的としたトレイルランニング事業がある。

問「新しい人の流れをつくる」に関する動向は。

福田課長 移住・定住の促進として空き家バンクの充実、田舎暮らし研究プロジェクトにおいて、様々なイベントの開催やワーキングステイなどの取り組みを通じ、交流と暮らしの体験を積極的に推進している。

問 移住・定住の促進として新規分譲地の確保は。

福田課長 彩葉の分譲地が残り20数戸であり、それが完売した後に再度検討する。

問「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」に関する動向は。

福田課長 結婚・出産への支援として、結婚へ向けた機会の創出や出産の支援として、特定不妊治療費助成、妊婦健康診査助成事業などの助成事業の充実を図ることで出生率の増加を目指す。子育て環境の充実として小学校4年生から6年生までの放課後児童クラブに受け入れるための体制の整備、子育て支援センターの充実などにより、子育て家庭への支援を行っている。教育環境の充実として、地域と学校が連携して取組むコミュニティースクール事業が今年度から西吉富小学校、唐原小学校の2校で導入され、他の小中学校においても来年度以降、順次予定されている。

問 放課後児童クラブの中で新しい内容の検討は。

垂水(英)子ども未来課長 来年からのスタートということで、手探りの中で始まると思う。今後の学童の運営、そして学校の授業との連携を踏まえて、教育委員会と子ども未来課で協議し、進めていきたい。

夏休み放課後児童クラブ土器づくり

問「時代に合った地域づくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」に関する動向は。

福田課長 人口減少に伴う必要なサービス機能を提供するため、西友枝体験交流センターゆいきららを中心とした小さな拠点づくり(※)の推進や、地域が抱える様々な課題を解決するため、地域づくり活動団体や各種ボランティア団体と協力し、地域の支え合いを担う人材の確保を図る。安心な暮らしの確保として、犯罪のない町づくりや地域防災力の強化、健康の町づくりとして各種健康診断事業の充実、今後高齢化が進むにつれ、増加が予想される認知症へのサポート体制の強化、買い物弱者対策として、移動販売の充実など、住民満足の向上に向け、取り組みを全課で行っている。

※小さな拠点づくり
小学校区など、複数の集落が集まる基礎的な生活圏の中で、分散している様々な生活サービスや地域活動の場などを「合わせ技」でつなぎ、人やモノ、サービスの循環を図ることで、生活を支える新しい地域運営の仕組みをつくろうとする取組。